

【宮崎県内】介護施設における労働災害発生状況

1. 令和5年に宮崎県内の介護施設で発生した労働災害について

(1) 事故の型別の発生状況

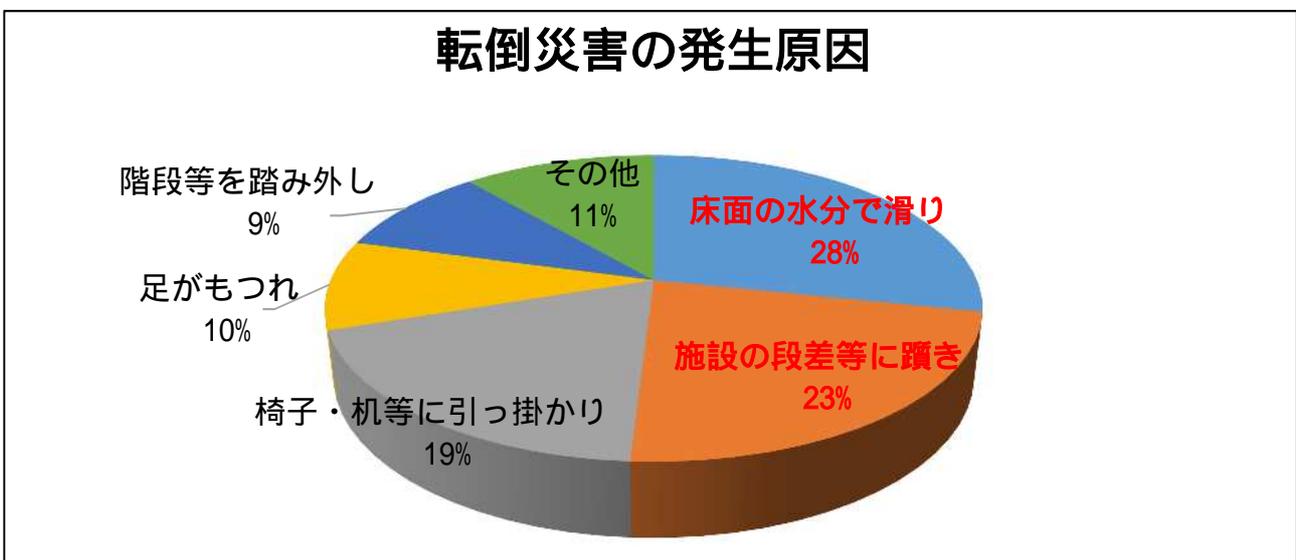
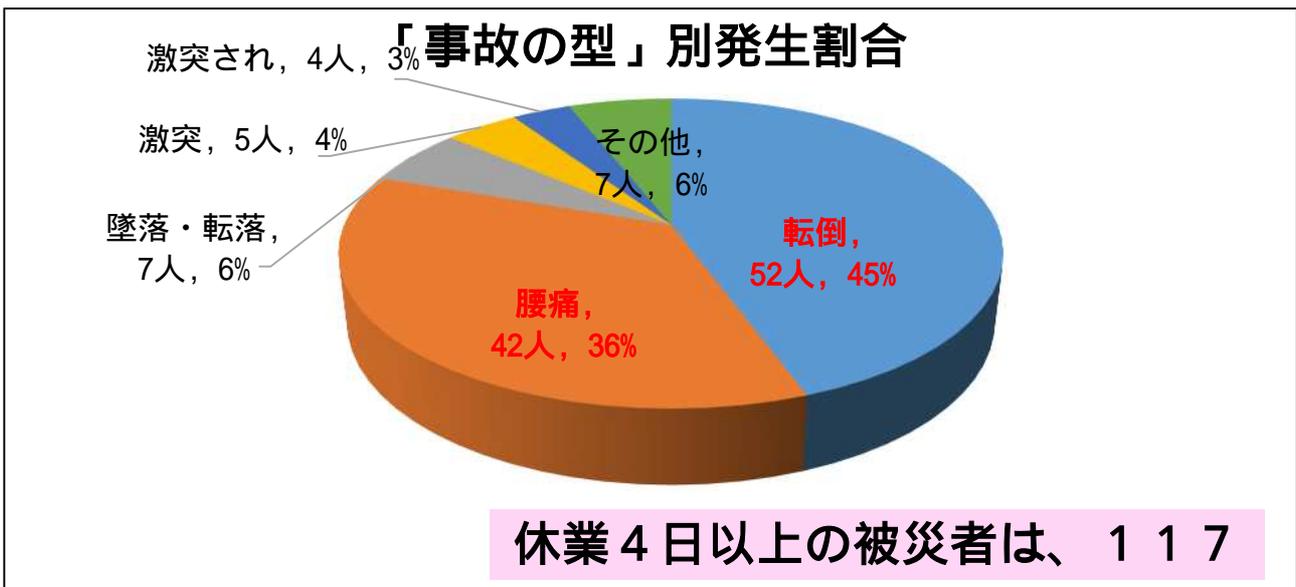
令和5年に宮崎県内の介護施設で発生した休業4日以上労働災害による負傷者は117人で「事故の型」別で分類すると、「転倒」が最も多く45%を占めており、次いで、「動作の反動等」（主に腰痛）が36%となり、この2つで災害全体の81%を占めている。

転倒災害の原因では「床面の水分で滑り」が最も多く28%で、次いで、「施設の段差等に躓き」が23%となっている。

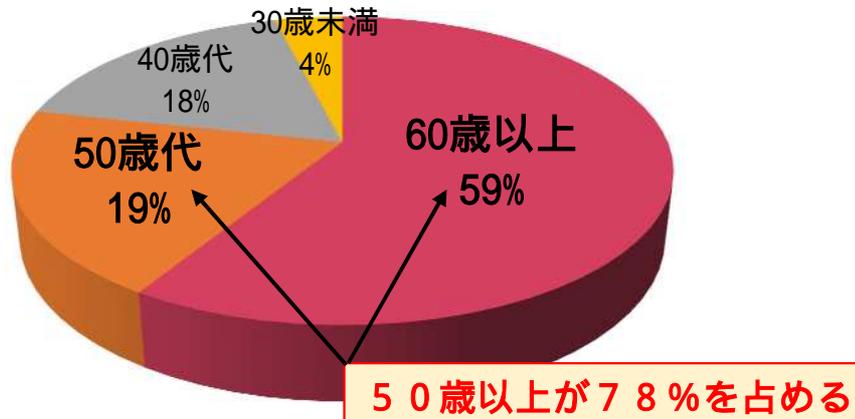
また、年齢別では、50歳以上が78%を占めている。

「動作の反動等」（主に腰痛）による災害発生時の作業内容では、「ベッド 車椅子への移乗」の際の発生が最も多く55%を占めており、次いで、「入浴介助」が17%となっている。

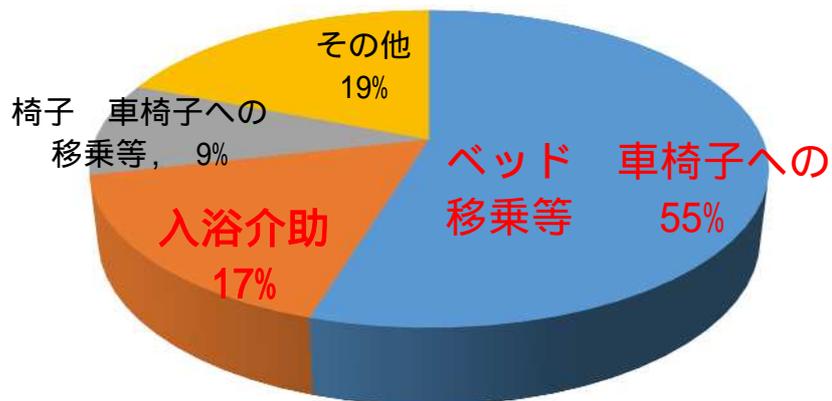
また、被災者のうち、経験年数2年以下が42.9%を占めている。



## 転倒災害年齢別内訳



## 動作の反動等による災害（主に腰痛） 発生時の作業内容



## 動作の反動等による災害（主に腰痛）の 被災者の経験年数

